

糞尿まみれの“阿鼻叫喚”

「いい」と、何度も田島さんに要望してきたが、話し合いがつかなかったという。

ところが、昨年の暮れ、田島さんは激しい神経痛に襲われて動けなくなった。

当時、約80頭の犬がいたが、ろくにエサももらえなくなり、糞尿はタレ流しと、最悪の状態になった。このため、栄養失調、運動不足で倒れたり、汚物まみれで皮膚病にかかる犬が続出したが、体が動かない田島さんにはどうすることもできない。糞尿の中に死骸がごろごろとあったのだ。

「今年の6月でしたか、こういう実情をテレビ局が知り、汚物まみれで飢えている犬たちの悲惨な状況が放映された

んですよ。

これがきっかけとなって、日本動物福祉協会や関西の動物愛護団体が、動物虐待にあたるとして救済運動をはじめ、欧米など外国の愛護団体に訴えるとともに、県当局にも改善策を求める要望書を送ったんです。

地元の苦情もあるし、県としても放っておけなくなり、田島さんを説得して、近くの空き地に簡易収容所をつくって、

犬たちを保護することになったんです」(地元記者)

というわけで、大掃除が行われて、やっと犬たちは糞尿地獄、飢餓地獄から救い出されたわけだが、こんな惨状になる前に、なんとかできなかったのか？

田島さんに会った。

黒のズボンに白いシャツ、グレーの上着と、すっきりした身なりだったが、杖なしではまだ歩けないようで、長い杖にすがっていた。

「偏屈なおじいさんで、困る」という近所の声もあるが、会った印象ではやさしそう

な、小柄な老人だ。

「私がここにやってきたのは15年ほど前なんです。それ以前は、東京でミシンの営業をやっておりました。奈良にいた姉が病気で死んだので、奈良に移って、姉の看病をしながらミシンのセールスを続けてたんです」

そんな日々を送るうち、ある団地の草むらで、7匹

もの子犬を抱えた野良犬と出会った。これが、田島さんの人生を変えた。

「それまで私は、動物は好きだけ

見のがせない店
ランジェリーショップ

池袋駅西口
(100m)

☆あしやれな貴女は
☆奥様に彼女にふしぜ
ントしたい方は
☆カッパルの方は
●楽しく買物出来る店です。
アメリカ・ヨーロッパ直輸入し
ますので、お求めやすい価格
で商品も豊富に取り揃えて居
ります。ロングナイティ、デデ
スリーインワン、ベビードール、
ガーターベルト、国産ショーツ
各種あります。
◎カタログ送料込 ¥2,000
(カード取り扱い)

〒171 東京都豊島区
西池袋1-34-4
TEL 03(5396)5484
《年中無休》
AM 11:00 ~ PM 10:00

ローラン

西一丁目通り

西口

池袋駅

ど飼ったことはなかったんです。でも、子犬たちがひもじさでクンクン鳴いているのを見ると、放っておけなくなってきた、子犬を全部拾って帰ったんですよ。

「私に、姉の家はアパートで犬が飼えない。そこで、人に迷惑を

かけない山の中で飼ってやろうとこの土地にやってきて、500坪ほど借りて、小さな家を建て、犬と一緒に暮らしはじめたんです」

家といっても、作業小屋みたいなもので、7匹の子犬が最初の同居者となった。

犬の面倒をみはじめて、田島さんはミシンのセールスをやめ、古ミシンを修理する仕事に切り替え

たという。

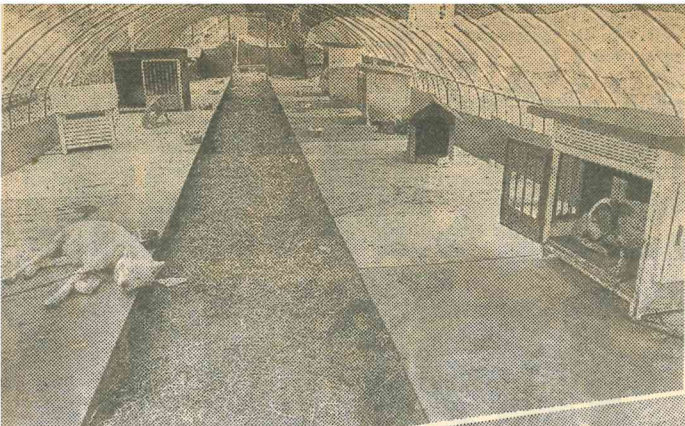
「私は自分で『日本動物保護協会設立準備事務所』というのをつくりまして、ミシンの修理でまわる先々で、転勤などで飼えなくなった犬の話を聞くと、こちらに引きとるようになりましたので、だんだん増えて、一時は200頭を超えました。

私は、捨てない、増やさない、殺さない、(飼えない所では)飼

わない、の『四ない運動』を進めてきたのですが、昨年暮れにひどい神経痛で、犬たちの面倒がみられなくなってしまうて……」

それにしても、常時50頭から100頭の犬をどうやって養ってきたのか？ 数年前からは年金生活の身である。

「転勤の家庭などから引きとるときは、先方から『志』の形で、1頭あたり3000円とか5000円とかもらいましたが、40、50頭にもなれば、どんなに安くあげても、月数万円はかかります。



▲きれいな毛並みの柴犬だったモン助はしつぽが糸のように細くなってしまった。▲収容所に保護された31頭のうち、1頭は死亡してしまった。